

## 公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービスLEIF五日市			公表日	2026年2月10日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3		利用定員に対して十分な指導訓練室を確保している。パーテーション等を通じて、利用児童に合わせた環境を整えている。	
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3			現在、五日市事業所においても、よりゆとりを持った見守りと、質の高い支援を実現するために、指導員の新規採用と育成を強化しております。
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3		大切な情報は壁に掲示し、視覚化されている。段差等がないようスロープになっている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	3		日々清掃を行い、子どもたちが過ごしやすい環境を整えている。	
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3		着替えをする際、個別に話すことが出来る相談室、学習や活動スペースを区切っている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	3		毎日MTGを行い、前日の振り返り・当日の割り振りなどを行っている。また、月に一度の2事業所間のMTGにより情報共有等がきちんとされている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3		毎年1回、保護者アンケートのご意見をもとに業務改善に向けた共有と対策について話し合っている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3		日々のミーティングで意見交換、定期的な個別面談などの機会を設け、業務改善に繋げている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		3		第三者による外部評価の機会がない。今後、外部評価を行う環境を整えていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3		全社研修の実施を行っている。また、毎月定例の研修（廿日市事業所との合同ミーティング）、西日本エリアのLEIFでの事業所間の定期的な交流を通して資質の向上を図る機会を設けている。	
支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3		毎日の療育MTGにより活動プログラムは子供の状態に合わせて更新されている。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	3		療育を通して子どもの成長点、課題を日頃から職員で分析・共有している。半年に一度、保護者面談を実施。その他、担当者会議等を通じて、保護者のニーズや子どもの課題を共有している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3		支援計画原案は各指導員が作成の上、職員間で検討している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3		毎月1回、2事業所（五日市・廿日市）での対面での研修の機会を通して、日々の療育の振り返りと改善案について共有の上、支援を行っている。	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		3		日々に行動観察は療育後に経過として残しているが、職員が入力するアセスメント表は用いていない。

適切な支援の提供	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3		放課後等デイサービスガイドラインに沿った支援目標を設定し、個別に合わせた支援内容が設定されている。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3		日々の集団療育のプログラムは、複数名を中心立てて立案し、全体で共有している。また、イベント等の立案はチーム全体で検討し、企画している。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3		サッカー（スポーツ）での集団活動のみならずイベントも実施しており、固定化しないよう工夫している。	
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	3		集団活動をメインとして行っているが、運動能力に応じて個々にメニューを変えたり、また難しさがある子に対しては、分かりやすいように個別対応を行いながら参加できるようにしている。	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3		チームで連携を密にするため、毎日ミーティングを行っている。来所児童について、前回の様子等の話を共有して当日の活動内容、指導員の配置に反映している。	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3		次の日に支援の振り返りと今後について共有することを心掛けている。	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3		日々の支援については個別に記録をとっており、支援の検証・改善につなげている。	
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3		定期的にモニタリングを実施、個別支援計画の見直しを行っている。	
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	3		放課後等デイサービスガイドラインに沿った基本活動を実施している。	
	25 子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	3		学年や個々のコミュニケーション力に合わせて行っているが、学年が上がるにつれて、自分で考えて自己決定ができるように基本的には「待つ」と子を大切に全職員が支援を行っている。	
関係機関や保護者との連携	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3		管理者もしくは児童発達支援管理責任者が参加している。	
	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3		相談支援員、学校とも密に連携し、状況に応じて担当者会議等を実施している。	
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	3		利用者の様子や出来事など細かな情報まで共有をしている。学校の先生と支援の統一性を図るよう送迎の際に共有している。	
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		3		保護者からの情報しかないと、各関係機関とは連絡・連携が取れていない。
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		3		相談支援員の方がついていない子に関しては、他の福祉サービス事業所との情報共有は出来ていない。
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		3		現状は、児童発達支援センターとの連携を図ることが出来ていない為、今後、助言や研修を受ける機会をつくっていきたい。
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。		3		現状、交流機会がないため、今後の課題として機会をつくっていきたい。
	33 （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	1	管理者もしくは児童発達支援管理責任者が参加している。	
	34 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	3		連絡帳や送迎時に保護者へ子どもの様子を伝えて、直接伝えれない場合には電話などで伝えている。	

	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレンツ・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3		親子サッカー、餅つきイベントなど、親子で参加できる機会をつくっている。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3		契約時には必ず細かくお伝えしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3		契約前に保護者からご意向を聞くことを徹底している。また、定期的にモニタリング等を通して保護者の意向を確認している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	3		個々で日程調整を行い、更新の度に面談を行っている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3		LINE等で相談の連絡が入ったときにはすぐに電話をして支援を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	3		開所してから、少なくとも年1回は保護者会を開催している。	2026年度の開催に向けましては、保護者様同士の懇談・情報交換を主としたプログラムを企画・準備しております。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	3		基本的に週1回インスタを更新し、活動をお伝えする場としている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3		個人情報の研修を実施しており、鍵付きの書庫を利用して、管理を徹底している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3		言語理解が難しい子に対しては、絵カードを使用するようにしている。また、こどもに今後のことについて伝えたり話をするときは、視覚でわかりやすく伝えるように工夫している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		3		今後の課題として取り組みたいと考えている。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3			研修は行っているが、発生想定の訓練はまだ不十分なので今年度実施していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	2	1		業務継続計画は策定しているが、避難訓練についても利用曜日の関係から全利用児が参加できておらず、保護者様への周知も不十分であると認識しております。今後は、より多くのお子様が訓練を経験できるよう、3月と8月に「避難訓練週間」を設定し、参加機会を拡充いたします。併せて、災害発生時の保護者様への連絡手段・フローについても再構築し、周知徹底を図ってまいります。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	3			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3		安全計画にもとづいて、毎月研修を行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3		共有をして再発防止策を全員で検討している。	

	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3		毎年、虐待防止委員会の開催、研修を実施している。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	3		契約時に身体拘束について保護者に説明し、事項説明書に記載し、同意を得ている。	